

「デンマークに学ぶ 平和のための底力」

～わたしには何ができるのだろう～



おはなし 吉田恵美子さん



よしだ えみこ

特別支援学校を中心に35年間教職を務めた後、デンマークの障がい者と健常者が一緒に学ぶ成人学校「エグモントホイスコール」に留学。

日本では無理だと思われることでも、エグモントでは車いすの人と一緒に学ぶとともに、釣り、海水浴、カヌー、登山などを楽しんで来た。

帰国後「デンマークキャンプ2017in焼津」にスタッフとして関わり、障がいのある人と一緒に釣り、カヌー・登山を楽しむ。

現在「多様な人たちが集まり、つながる場」として自宅ですーぷ屋「Hygge」を開業。年代・職業・障がい・国境を超えて「ゆるくつながるまちづくり」を目指す。

長崎県出身、焼津市在住。「まちづくりを考える会 Hygge」代表、「アートクラブ waC」スタッフ、「市民活動交流センターくるさ〜」相談員、「人間と性教育研究会」会員、NPO 法人「静岡県障害児教育の充実を考える会」理事

日時

3/15 SUN

12:30～開場・受付

展示 (waC作品、エバーグリーン活動報告等)

13:00～14:00 青春の鼓動 (高校生による文化行事)

14:00～吉田恵美子さんのお話し

萩原 龍也 坂本 友水

15:00～トークセッション

17:00～交流会 ～20:00

会場

藤枝市生涯学習センター

参加費 500円 学生以下：無料



【問い合わせ・申し込み】

山口：090-9663-6101 george2525peace@yahoo.co.jp

橋本：090-1864-4887 hashi_jun@xf7.so-net.ne.jp

【後援】 藤枝市・藤枝市教育委員会

知っておかねばならない過去のできごとがある。
 解決せねばならない現在の課題がある。
 それらと向き合わずに、どうして未来を語れようか。



デンマークでは、税金は高いが、自分が社会を支えていることに誇りを持っている。だれでも生活費は保障され、教育も医療もすべて無料。障がい者は3~4人の若いアルバイトヘルパーを自ら雇い、一緒に学んでいる。この学校では試験もないし、成績もつけない。それぞれ独自の個別の学習をし、教え合い、自分には何ができるかを探求している。



女性の発言権が高まり、自分たちの生活は自分たちで作ろうという雰囲気強い。政治に関心が高く、政治を変えられる、変えている、という実感を持っている。首相は41歳の女性、議員の平均年齢も30代、最高が50代。税金が何に使われているか、食べ物は安全かなど、政治は生活のことであり、自分のこと、身の回りのこととして考える習慣が根付いている。まさに「ビールを片手に政治を語る」が合言葉。

いつだって「エバーグリーン」、いつまでも「エバーグリーン」

2003年、「平和をつくるために地元で何かできないか」と立ち上げた「エバーグリーン」の活動は今年で17年目を迎えます。教員、市民、高校生、大学生、若者が実行委員会を結成し、これまでに15回の写真展・映画会・講演会を行ってきました。長倉洋海、高遠菜穂子、広河隆一、堤未果・森住卓、山本敏晴、四之宮浩、足立力也、豊田直巳、玉本英子、伊東英朗、伊藤めぐみ、「種まきうさぎ」上映会、「沖縄うりずんの雨」上映会ジャン・ユンカーマン監督講演会、桃井和馬写真展・講演会。そして2019年には川崎哲さんを招きました。「主権者は主催者から」「めんどくささを、引き受け楽しむ」「作って食べて、つながって」を合言葉に、高校生や大学生、若者たちが中心になって平和や人権について学習し、地域に発信し続けています。

2009年からは「平和をつくる旅」と称して長野の「無言館」、京都「立命館大学平和ミュージアム」、伊豆市「妙蔵寺」に佐治妙心（麻希）さん、東京夢の島の「第五福竜丸展示館」と「ひとみ座」を訪問。17年には埼玉の「原爆の凶丸木美術館」を見学して秩父ユネスコ協会の若者たちと交流、2018年「山梨平和ミュージアム」、2019年には再び「無言館」を訪問し、平和のために自分には何ができるのだろうか、考え学ぶことができました。

2011年からは、焼津平和賞を受賞した高知県の「幡多高校生ゼミナール」との交流が始まり、高知と福島の高校生と共に「韓国・平和の旅」にも参加しました。

これを機に私たちも、第五福竜丸と放射線被ばくについての学習と調査を開始。当時中学生で原水爆反対署名を始めた杉村征郎さん、第五福竜丸の乗組員だった見崎進さん、池田正穂さん、焼津漁港の職員だった北原茂治さんのお話を聞く会をもちました。

2013年、14年には「平和をつくる旅・核被災に向き合う青年・学生の集い」に参加し、福島の被災地に学び、核被災に関する歴史と、これからを担う若者があるべき姿について語り合いました。

毎年8月の「藤枝市平和展」では、高校生や若者による「青春の鼓動〜平和だからこそ〜」を、主催者として楽しみながら企画運営しています。

「平和とは暴力のないこと。差別や貧困など「構造的な暴力」とそれを許容したり見逃したり無視したりする「文化的な暴力」が戦争を導いてしまいます。わが国はだいじょうぶ？今回も、デンマークから様々なことを学び、何ができるのか考えることができそうです。

ひとつの思いを持って行動していると、様々な出会いがあり、つながりができ、世界が大きく広がります。一人の力は小さいけれど、その一人ひとりの力が集まれば、とても大きな流れをつくることができます。

是非、一緒に考え、行動しましょう！

